

德島

2012年(平成24年)10月26日(金)

施設で働きたい外国人に用語やマナー教える

きながら勉学に励んで
講座は、県内で就労
を望む外国人から「外
国人向けの日本語講座
は初級レベルのものが
多く、上達せずに就職
につながらない」との
悩みが寄せられたこと
をきっかけに始めた。
徳島市昭和町3の県労
働福祉会館（別館）で
開いている。

介護施設での就労を目指す外国人を対象に、介護の用語やマナーに特化して教える県労働者福祉協議会の「介護の日本語講座」が好評だ。修了者はホームヘルパーの資格取得や就職に向けた支援も受けられ、09年の開講以来、中国やフィリピンなど8カ国約12人が職に就いた。現役受講生も「頑張って、長く働く仕事を就きたい」と希望を抱きながら勉学に励んでいる。

【加藤美穂子】

講座は、県内で就労で働くことができるといふ、「早く安定した外国人から「外で働きたい」という愛国人向けの日本語講座職を得たい」という愛は初級レベルのものが、講者の思いにも応え多く、上達せずに就職る。

現在の受講者はアジアを中心とした各国出身の20～50代の女性ばかり約10人。実際の講義では施設などで予想される具体的な場面を

県労働者会 福祉協議会 開講以来12人が就労



介護施設での具体的な場面を想定し、会話を学ぶ受講生
(左)=徳島市昭和町3で

「介護の日本語」好評

他の受講生が仲良くしてくれるから大変だけれど楽しい」。同国出島で徳島市で水産加工の仕事を携わる田村マリ（39）も「資格が取れたら一生大事にして、働き続けたい」と意気込む。

一方、講座の修了者を雇用した同市のグル

てくれるなど、工夫しないで頑張ってくれて、「いる」と修了者の勤務姿勢を評価する。

現在、講座は同市だけでの開催だが、県南部や西部から通う受講者も増えており、協議会は将来、他の地域でも開けないか検討したいという。

「プロホーム」「ハートイ
ノ生言」の口承業者